

OBRIGADA PORTUGAL

Oita Japan Portugal Association

「オブリガーダ」とは、ポルトガル語で「ありがとう」(女性が言う場合)の意味です

歴史と音楽でつながる大分・ポルトガル ～「南蛮BVNGO講演会 & Marionetteコンサート」イベントレポート～

今回の「オブリガーダ・ポルトガル」は今年の3月5日(土)コンパルホールで開催しました、「南蛮BVNGO講演会 & Marionetteコンサート～歴史と音楽でつながる大分・ポルトガル」のイベントの様子をレポートとします。

第1部 講演「街道からみる南蛮貿易のまち豊後府内とエヴォラ」

講師：岡 美穂子 氏(東京大学大学院 情報学環 准教授)



南蛮BVNGO講演会の様子

第1部では、キリシタン史や南蛮文化の研究の第一線でご活躍されている岡美穂子氏が講演を行いました。かつてイエズス会が作成した書簡から読み解いた、伊東マンショから天正遣欧少年使節団にまつわる航路やエヴォラでの様子、パイプオルガンをはじめとした楽器のエピソードのほか、当時の豊後府内の様子についてもお話いただきました。

参加者からは、「自分が住んでいる地域が昔、思っていた以上にロマンを感じさせる地域だったかもしれないと思うとわくわくした。」「歴史に詳しくなかったが、興味がわいた。もっと大分とポルトガルのつながりを深く知りたいと思った。」「南蛮貿易に豊後府内の果たした役割が、考えていた以上に大きかったことを知り驚いた。」などの声をいただきました。

※大分市公式Youtube「いいやん！大分」にて、講演の様子を後日公開予定です。ぜひご覧ください。

第2部 ポルトガルギター&マンドリンコンサート

出演者：MUZIC@NET/マリオネット(湯浅 隆氏・吉田 剛士氏)

第2部では、日本におけるポルトガルギターのパイオニアである湯浅 隆氏と、マンドリン界をリードする吉田 剛士氏のユニット「MUZIC/マリオネット」によるコンサートを行いました。

お二人のポルトガルのサウダージ(郷愁)を感じさせる演奏は息がぴったりで、CMでお馴染みの「南蛮コリドー」「南蛮舞曲」を含む全14曲、1時間の演奏時間はあっという間に過ぎました。

参加者からは「哀愁たどよう美しい音楽に感動した」、「ポルトガルを身近に感じる事ができた。」などの声をいただきました。



開催チラシ



Marionetteコンサートの様子

2022年
3月発行



大分日本ポルトガル協会

■事務局

大分市企画部国際課

■TEL / FAX

097-537-5719 / 097-536-4044

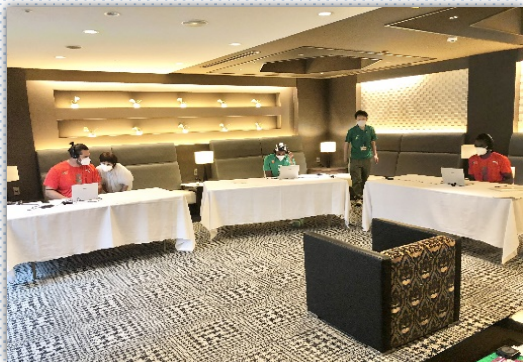
■住所

〒870-8504 大分市荷揚町2番31号

■Eメール

kokusai@city.oita.oita.jp

東京2020オリンピック『ポルトガル陸上競技代表チーム』の成績 及び事前キャンプについて



動画を何度も巻き戻しながら、動作をチェックして、足の動かし方やフォーム、体幹の使い方など、細やかにアドバイスする選手たち

昨年7月に行われた「東京オリンピック2020」では、陸上代表チーム31名（大会出場選手13名、コーチ・トレーナー等スタッフ18名）が大分県を事前キャンプ地として、7月17日（土）～28日（水）まで、昭和電工ドーム大分にて合宿を行いました。

期間中には、インターハイの陸上競技に大分県代表として出場する高校生とのオンライン交流会を開催し、選手たちは宿泊先のホテルから、高校生たちは会議室からそれぞれ中継を結び、事前に撮影した高校生の練習風景の動画を見てチェックするなど、オリンピック選手から直接アドバイスを受けました。

大会本番では、男子の三段跳びでペドロ・ピチャルド（PEDRO PICHARDO）選手が金メダル、女子の三段跳びでパトリシア・マモーナ（PATRICIA MAMONA）選手が銀メダルを獲得しました。



自身の練習動画を見ながら、オリンピックから直接アドバイスを受けて、質問する高校生



大分県のホームページでは、メダルを獲得したお二人から大分県の皆様への感謝のメッセージを見ることができます。詳しくは、右のQRコードを読み取るか、下記のアドレスからご覧ください。



※ポルトガル陸上選手団からのサインボード

ロシアによるウクライナ侵攻に関するポルトガルの対応

2月下旬、ロシア軍によるウクライナ侵攻により、世界の様相が一変しました。この侵攻に対し、アメリカやイギリス、EU各国、また、日本でも、非難声明と厳しい制裁措置をとっております。

在ポルトガル日本国大使館発行の「大使館便り」（※一部抜粋）を参考に、ポルトガル政府の対応を下記のとおりまとめました。

- ・2月24日 大統領府は、ロシアによる国際法の重大な違反を極めて強く非難し、ウクライナへの全幅の連帯を表明する声明を発表。同日に臨時の国防最高評議会会議を開催し、「即応統合任務4部隊（VJTF）及び初期後続部隊（IFFG）の始動」、「ルーマニアへの派兵時期の繰り上げの可能性」をNATOの枠組みにおけるポルトガル軍の参加案として満場一致で賛成。
- ・2月27日 レベロ・デ・ソウザ大統領がウクライナのゼレンスキー大統領と電話会談。
- ・2月28日 ポルトガルのロシアに対する強い非難及びウクライナの勇敢な抵抗に対する支援について繰り返し言及。
- ・3月3日 政府は、ロシアへの制裁として、SWIFTからのロシア金融機関の除外、ポルトガル領空内のロシア航空機の飛行禁止措置の実施等を発表。また、ウクライナへの独自の軍事支援として、殺傷能力のある武器を含む各種装備・機材の供与を発表。10万ユーロ医薬品・医療用品を送付し、ウクライナでの病床が不足した場合の国民保健サービス病床の提供を発表。また、レベロ・デ・ソウザ大統領がリスボンのウクライナ難民避難施設を視察。

編集後記

今回の「オブリガーダ」は、いかがでしたでしょうか。

新型コロナウイルス感染症の世界的な蔓延に加え、ロシアのウクライナ侵攻など、情勢が不安定ではありますが、その一方で、東京オリンピック・パラリンピックなどの大型イベントに加え、大分市でもポルトガルに関するイベントが開催され、徐々にではありますが、コロナ禍が明ける兆しが見えてきたのではないのでしょうか。

今回も、日本ポルトガル協会の会報誌『ポルトガル便り』のスクラップを同封しております。

事務局では、これからもポルトガルを知り、親しんでいただける情報を発信していきたいと思っております。

★大分日本ポルトガル協会事務局★